

2) e-びーふ認証農家の紹介；

認証農家第2号： 岩間肉牛牧場 場長 岩間裕信
芽室町報徳

a) 牧場の特徴・こだわりは何か？：

芽室町は北海道でも有数の畑作地帯であり、岩間牧場は循環型農業を目指して畑作と畜産の複合経営を行っています。小麦、ビート、イモなどの畑地40haに130頭の牛の堆肥を還元し地力を維持。牛はアンガス種と黒毛和種の交雑種で飼料としてでん粉粕やスイートコーン粕のサイレージ、小麦ワラ、自家製牧草などを給与し、繁殖牛・育成牛は夏季に放牧を行い、配合飼料の節減を図り、飼料の乾物自給率37%を達成しています。

b) こだわりに至る経緯：

親子3代にわたる畑作農家に牛が導入されたのは昭和42年。ホルスタイン種乳牛導入後直ぐに粗飼料利用性の高いアンガス牛に切り換えて今日に至っています。畑作のための家畜導入から未利用資源を活用した資源循環型牛肉生産を目標にして、配合飼料の利用を節約しつつ2006年アンガス牛枝肉共励会で優秀賞受賞しています。

c) 牛の品種と飼養頭数：アンガス種F1、アンガス種、黒毛和種

肥育牛 80頭 繁殖牛 50頭、総頭数 130頭。

年間肥育出荷頭数 40頭

d) 飼料原料・材料構成：でん粉粕サイレージ、スイートコーンサイレージ、デントコーンサイレージ、ビートパルプ、乾草・麦稈、肥育用配合飼料

e) 農地面積：畑地 40ha, 採草地 30ha,

f) 労働力：経営主夫婦と子息夫婦の家族労働 4名

g) 生産された肉はどこで手に入るか？：出荷はJA芽室町経由でマルハ取扱。

JA芽室町ファーマーズマーケットなどへの出店等は今後の課題

h) 写真、コメント

親子3代にわたって地元の副産物利用による家畜飼養と堆肥の畑地還元による地域内資源循環の農業を実践。次世代にこの営農を引き継いでいる自信が伺われる農家です。畑畜複合は今、はやりの耕畜連繫の原点であり、堆肥還元による安定した畑作生産を背景に飼料乾物自給率の高さも決して無理をしないレベルでアンガス牛枝肉として優秀な枝肉成績を挙げています。この農場の特徴は、畑作と肉牛生産のバランスの良さにあり、このバランス感覚は資源循環型農業を持続する上で大切なことなのでしょう。



